

第2部

各地からの報告：東京都内各地の生息繁殖状況

2. 西多摩地区②：境原 達也氏（東京オオタカ保護連絡会）

当連絡会は1990年に結成した。かつては25名いたが現在7名（実働4名）で調査能力が限られている。また実際調査に関わっている人は調査を趣味としているので個人の情報として抱え込む傾向がある。何か事が起きると会としての調査は盛り上がるが、最近は大きな開発はなく、調査能力が落ちている現状にある。またサポート組織に東京オオタカクラブがあり、1990年から支えてもらっており現在61名の会員数である。

あきる野市・日の出町と八王子の一部を主な活動エリアとして調査している。以前は第二と第四日曜日に活動していたが、現在は第四日曜日に調査している。開発などがある場合はさらに調査をしている。

日の出町とあきる野市の営巣地の例を紹介する。営巣地Aは頂部に近い尾根のアカツで、2011年の台風で落巣したが、2012年も場所を変えて巣は未確認でしたが巣立ち雛の確認があり、2013年は谷側のモミに営巣確認している。営巣地Bは8年前からモミの木に営巣が確認されておりましたが、4年ぐらい前から枯れが進行している状態である。営巣地Cは以前より近くで営巣していたものが2012年以降現在のモミでの営巣が確認されています。

2013年の繁殖状況は、営巣地Aは2012年は巣の場所はわからなかったが巣立ちは確認され、2013年は2羽の巣立ちが確認されています。営巣地Bは途中1羽の雛が確認されたがその後営巣放棄された。木に登った跡はなかったので、おそらく密猟ではなくカラスなど他の要素が原因と推定される。営巣地Cは3羽巣立った。巣間距離は2.5～3.7キロメートルで、以前よりこの地域全体（37巣と推定）が密集傾向があったが、最近は間が抜けてきて、巣の数が減っている印象をもっています。そこで2～3年前から丁寧に営巣確認をやり始めたところである。今後東京都の山口さんなどとも協力し、情報提供も行っていきたい。